9/24 赤旗

京大有志の会が声明書発表

憲法おとしめた法律葬る

京都大学の教職員や学生でつくる「自由と平和のための京大有志の会」は19日、戦争法の強行採決に対し「きょうは、はじまりの日」「独裁政治の終わりのはじまり」とする「あしたのための声明書」を発表しました。

声明書は「わたしたちは、忘れない」の書き出しで、「人びとの声に耳をふさぎ、まともに答弁もせず法案を通した首相の厚顔を」「戦争に行きたくないと叫ぶ若者を『利己的』と罵（ののし）った議員の無恥を」などと続き、首相や与党議員らを批判します。

さらに「わたしたちは、忘れない」とし「声を上げた若者たちの美しさを」「街頭に立ったお年寄りたちの威厳を」など、立ち上がった人たちの姿を強調。

そして「きょうは、はじまりの日」から続く文章で、「憲法を貶（おとし）めた法律を葬り去る作業のはじまり」「人の生命を軽んじ、人の尊厳を踏みにじる独裁政治の終わりのはじまり」「自由と平和への願いをさらに深く、さらに広く共有するための、あらゆる試みのはじまり」と、新たなたたかいについて訴えています。

同時に、子ども訳「あしたが まっている」も発表しました。子ども訳は全文平仮名で「わたしは わすれないよ おかしいことは おかしいと つたえようとした おねえさん おにいさんたちの しんけんなかおを」「ひとのはなしをきけるひとを ぼくたちが えらぶ」「じぶんかってな おとなは わたしたちが やめさせる」などと書かれています。